

ASA
大田中央

ASA
東大井

Presents

2007.7月

歩く目的

No.3
(毎月25日発行)

ASAスタッフは町歩き達人でもある。朝日新聞販売店発ご近所散歩ミニミニ



1

大森ベルポートで毎月最終土日開催されているフリーマーケット(以後フリマ)。掘り出し物が多く、ベルポートの名物にもなっているとの噂を耳にし、行ってみることにした。

大森ベルポートのフリーマーケットへ

休日のフリマへ

①すでに賑わうフリマ会場 大森ベルポートの南口広場は午前中にもかかわらず、店を出す人、買いに来る人で大賑わい。青いシートの上では、出店する人が山のような品物と一緒にお客を待つ。ビルの谷間に出現したバザール。“フリマの日”にしか出会えない賑わいのなか、あちこちと目移りしながら行く。

②出店する人との会話も楽しい 笑顔が素敵なお2人。半年に一度、友だち3人で着なくなった服をフリマに売りにくるんだそう。値段の交渉を始めると、「もってけドロボー(笑)！」と商談成立。



4

④全部手作りです!! 「貝殻に並べているのは、いったい何?」すべて手縫いで作っているという、革のプレスレットやペンダント。ひとつひとつ違ったオリジナルデザイン。こんな個性に出会えるのも、フリマの醍醐味。

⑤新鮮野菜いらなかね! 千葉県大多喜町の方々が地元のとれたて野菜を販売。毎月参加しているそうで、「このお豆、おいしいのよ~」とは、目当てに訪れるという常連のお客さん。

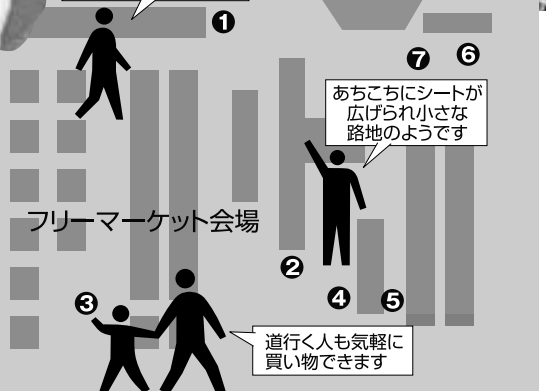


3

③“戦利品”はウルトラマン 遊びに来ていた仲良し兄弟。大好きなウルトラマンのフィギュアを手に入れ大満足の様子。

青いシートを広げてお店が連なっています

大森ベルポート



フリーマーケット会場



⑥

⑥お昼近くなると ベルポートの前を通りかかった人たちも、この賑やかさに誘われてやってくる。お昼頃にはすでにこの混みようで、活気も一層増してきた。



⑦

⑦突然のアクシデント

会場に突然の強風。倒れる衣裳ラック、こぼれる笑いとお声。これも青空市ならではのご愛敬？洋服が飛ばされないよう必至で抑える出店者。こちらは台北で作られた服や靴を売るお店。中国テイストの洋服と、刺繍の入った靴に一目惚れ！



⑩お店の佇まいに惹かれて 桜新道を渡った先の路地、ビルやアパートが並ぶ街角に、ほつんと一軒のお宅。そこだけ時間が止まったような落ち着いた佇まい。実はお蕎麦屋さんなのです。カラカラッと引戸からお店に入った。



⑩



⑨



⑧

⑧フリマの賑わいから逃れるように、続く緑の道へ 気が付くと、とつくに時間はお昼過ぎ。お腹もすいたし、少々疲れた。フリマの喧噪から離れるようにベルポートを縁取る並木道を歩いていく。木々は枝いっぱい葉を茂らせ、見上げると緑のアーケードを歩いているようだった。

⑨公園で出会ったのは 並木通りに導かれるまま行くと、大井坂下公園。そこにはなぜかトーマスボール…？ てつぺんにハトを乗せて、子ども達を見守る。町には時々こんな「なんで？」というものがある。



第二京浜
大森海岸駅



⑪

⑪桜色の歩道橋

お腹もいっぱいになり、再び桜新道に出ると、四差路にまたがる桜色の歩道橋が目飛び込んできた。さっそく上ってみると、ぐんと青空に近づいて、歩道にはなかった風の流れを感じた。橋の下から真っ直ぐに続く大通りのその先を、京急の赤い電車が小さく横切った。



あなご天もり(1,780円) 毎朝お店で手打ちされるという、コシの強い蕎麦。するするとのどに流れていく、手のひら以上もある大あなごは今が旬。このジューシーな味わいに、京野菜の甘長唐辛子がピリッとアクセント。
「布恒更科」南大井3-18-8



⑫

⑫良い散歩は、良いお土産に恵まれる 歩道橋脇のお煎餅屋さんで見つけた、草鞋のようなかりんとう。聞くと、かのユージンもこのかりんとうのファンなのだとか。帰り道、口に入れるとパリンという音と共に広がる黒糖のやさしい甘さ。片手にかりんとう、もう片手にはフリマで買ったお気に入り。小さな旅を終えたような充実感。“何かが見つかるかもしれない”そんな期待があるだけで、町歩きはひとつの冒険になる。黒糖かりんとう(350円)「田村米菓」南大井3-12-16



※次号8月号では、京急線「青物横丁」駅周辺をお散歩予定。